

研修2015年

わかる・わからない
できる・できない

音声言語がわかる

ひとりで、音声言語だけで、
わかった場合は「わかる」

誰かがヒントを出さないと
理解できないのは「わからない」

音声言語がわかる

試すなら、
直立不動で（腕は体につける）
視線を外し、
相手から少し声の方向も外し、
静かな声で言ってみてください
（これはとてもむづかしいことです）

相手の無意識での動作

- ・ 指さし
- ・ 視線を向ける

など、見てわかるもので判断して行動していることはありませんか？

できる・できない

ひとりでできた場合は「できる」

誰かがヒントを出したり、

手伝ってあげたり、

そばにいてあげないとできないのは

「できない」

優しい人ほど、

この子は

「言葉がわかります」

「●●ができます」

と考えがち・・・

しかし、それだと、
「わかっているのにしない」
とその子を追いつめることに

無意識に相手の言いたいことを読み取ってしまい「代弁」したり、あるいはやってあげたりして、「本人がする権利」を奪っていることは多い

例 ・ ●●ちゃん係

・ 私のボランティア体験

そんなことをしていると

- ・ 考えない（わからない）子
- ・ できない子
- ・ 指示待ちの子

ができあがる

本人も困る

周囲も困る

「わかっているのにわざとしない」

という言い方もよくされます。

ほんとうでしょうか？

単に「わかっていない」だけでは？

あれもこれも「ねらう」と

こちらもとてもしんどい（メンタル
をやられます）し、

1つだけにしぼってやりましょう

困った時は「その子に合わせる」

「その子は何がわかるんだらう？」

「その子は「何が」できるんだらう？」